

【国語科 学習指導案】

指導者 波光 明日海

○日 時：令和5年10月25日（水）14：15～15：00

○場 所：第6学年1組 教室

○学 年：第6学年1組（男子18名 女子19名 計37名）

○単元名：海のいのち

単元の目標

- (1) 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにし、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。【知識及び技能】
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

児童の実態

- (1) 本学級の児童は、6年生の6月に「風切るつばさ」の学習において、文章中の語句を使って自分の考えを書くことができた児童は11%であった。
- (2) 「風切るつばさ」の評価テストにおいて「クルルが再び飛べるようになったのは、なぜですか。カララとの関係に着目して、答えましょう。」という問題では、関係に着目して回答できた児童は33%であった。
- (3) 児童アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は86.3%であった。しかし、自分自身を振り返って分析できているかという点については、確かではない。

単元の評価規準

- (1) 知識・技能
 - ① 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。
- (2) 思考・判断・表現
 - ① 「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。
 - ② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。
- (3) 主体的に学習に取り組む態度
 - ① 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、粘り強く学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめ、共有することを通して、自分の考えを広げようとしている。

指導の手立て

- 登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に考えさせるために、根拠となる文章にサイドラインを引かせる。
- 学習課題に対する事前と事後の自分の考えを比較することで、自分の考えの広がりを感じさせる。
- 自分の考えを広げるために、友達の話に対して「なぜ」「どうして」などの切り返しのキーワードを使って話し合いができるようにさせる。自分の考えをノートに書き、それを基に切り返しのキーワードを使った交流の場を設定する。**シンキング**
- 自分の考えと相手の考えを比べながら聴くなど、「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を意識して発表や反応ができるよう、適宜評価を行い価値付けていく。**ヒューマン**

<児童生徒の発達をどのように支援するか>

- 自分の考えを書くことが難しい児童に対して、学級内で他の児童と考えを交流したり、書き方の型を用意したりすることで、どのように書けばよいのか気付かせる。

他教科等との関連

- 総合的な学習の時間「輝け一人ひとりの“いのち”」において、自分が何を大切に生きていきたいかを見つけるために、これまで読み取った人物の生き方などを受けて、思考に関わる語句を使いながら自分自身の生き方について書く活動を行う。その際、自分がまとめた考えを共有し、考えを広げることができるようにする。


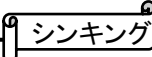
○ 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	評 価			
			観点別評価			評価方法
			知	思	主	
一	1	・ 「海のいのち」の全文を読み、物語の展開をとらえ、初読の感想を書く。				ノート
	2	・ 初読の感想を交流し合い、単元で育成を目指す資質・能力について知った上で単元の学習計画を立てる。			①	ノート 行動観察
二	3	・ 太一と登場人物との関係をまとめる。		①		ノート
	4	・ 太一の父親の人物像や何を大切に生きてきたかについて考え、太一にとってどのような存在なのかまとめる。		②		ノート
	5	・ 与吉じいさの人物像や何を大切に生きてきたかについて考え、太一にとってどのような存在なのかまとめる。		②		ノート
	6	・ 太一が瀬の主を殺さなかった理由を考え、交流する。		②		ノート 行動観察
	7	・ 「海のいのち」とは何なのか考える。		②		ノート
三	8	・ 自分が何を大切に生きていきたいかについて考えをまとめる。	①			ノート
	9	・ 自分が何を大切に生きていきたいかについて考えたことを交流し、再度考えをまとめる。			①	ノート 行動観察

○ 本時の目標

文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。【思考力、判断力、表現力等】

○ 本時の学習の流れ

過程	学習活動	◇指導上の留意事項 ※評価規準（評価方法） ◆「努力を要する」状況と判断した児童生徒への指導の手立て
つかむ	1 太一の瀬の主に対する思いを振り返り、本時の課題をつかむ。	◇ 太一の心情と行動にズレがあることを気付かせるために、太一が瀬の主に対して強い思いをもっていたことを振り返らせる。
考える	2 太一が瀬の主を殺さなかった理由を考える。 ・個人	◇ めあてに対する見通しがもてるように音読させる。 ◇ 考えの根拠となる叙述を明確にさせるために、事前に太一の心情や太一と対峙したときの瀬の主の様子が分かる部分にサイドラインを引かせ、自分の考えを書かせる。 ◆ 自分の考えを書くことが困難な児童には、個別に対応し、考えを聞き出しておく。
	・グループ（相談・確認タイム）	◇ 友達の考えと自分の考えを比べながら聴き、受容的な反応をした後で、自分の考えを言うよう促す。 
	・全体	◇ 自分の考えを広げられるよう、話し合いの際には、友達の意見に対し「なぜ」「どうして」などの切り返しワードを使うことを伝える。 
深める	4 再度、課題に対する自分の考えを書く。	◇ 自分の考えを広げるために、友達との交流で得た意見を自分の考えに取り入れて考えさせる。 ※ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。【思・判・表】（ノート）
	5 本時の学習のまとめをする。	[発問] 太一はクエを本当におとうと思って殺さなかったのだろうか。
まとめる	6 本時の学習を振り返る。	[まとめの例] 長年、瀬の主を追い続けた太一が、おだやかな瀬の主の様子から、クエをとらなければという思いと与吉いさの教えとの間でかつ藤し、瀬の主をおとうと見立てて、いのちのつながりや連続性を大切に守ろうと思ったから。
振り返る		[振り返りの例①] 最初は瀬の主がおとうだと思って太一は瀬の主を殺さなかったのだと思っていたけれど、友達の考えを聞いて、瀬の主を無理やりおとうと思うことによって、瀬の主を殺さずにすみ、海のいのちのつながりを守ったのだと分かりました。 [振り返りの例②] みんなの考えを聞いて、太一が瀬の主を殺さなかった理由や海のいのちの本当の意味などについて、考えれば考えるほど分からなくなってきたので、もっと深く考えてみたいと思いました。

